

赤鼻のトナカイ誕生の謎を探る

千葉大学薬学部助教授
小口敏夫支局長

皆さん多くは「まつ赤なおつハッナッのお」、トナカイさんは「あ」と口ずさむとき、自分の身体的欠陥のために嘲笑的であつたルドルフが、サンタが言つた優しい慰めの言葉で元気づけられたというほのぼのとした情景を思い浮かべることでしよう。しかし本当にそれでいいのでしょうか。そもそも赤鼻のトナカイはどうして発生したのでしょうか。慢性鼻炎？酒ヤケ？いや、何かの突然変異と考えるのが普通ではないでしょうか。しかし、本来、鼻は磁気を感じる器官ではありませんが、夜道を照らすような機能が突然変異で出現するとは思えません。歌詞にもちよつと気になるところがあります。ルドルフは「いつもみんなの笑いもの」で「いつも泣いてた」にも拘わらず、サンタがルドルフに声をかけたのはクリスマスの日なのです。つまり、普段ルドルフはルドルフで、クリスマス

感動のクリスマスと犬エッセイ

私の犬バカ日誌

なにわ支局

岡知子支局長

ラブラドール・レトリバーをこの夏から飼い始めました。アメリカ大統領のクリントン君も真似して飼い始めた、あの犬です。

名前はそのまま「ラブ」。今まで生きものは主人くらいしか飼ったことがない上、ヤクザな稼業で世話ができるかどうか不安でしたが、予想以上に、いや私以上に賢くて、本当に私の心を慰めてくれます。

これまで、盲導犬や災害救助犬なんて、まったく何の興味もなく通り過ぎてきましたが、犬と一緒に街頭募金をいたいると、なでたいがために走り寄り、盲導犬の普及につながると聞いては、クレジットカードを作ったり。仕事もエセ獣医に転向しようかと思いつています。子供がいないので、社会と接することのない私でしたが、おかげで「犬だち」も増え、散歩をして筋力アップし、ゴルフの飛距離も伸びました。

「ラブ」の贈り物は「う〇ち」だけじゃなく、私にいろいろなものを授けてくれました。ラブこそが今年の私の素敵なサンタだったようです。

おかともこ
岡医院・大和医院医長
(のびのぶ編集長の一番上のお姉さん
の同級生 & Dr. 米山の後輩)

しう）。
使命なんでも
スピバセン。で、でも、これは社会的使命なんだと怒られました。
(と、前の会社の先輩に言つたら、「フジワラちゃん、また平気でプロにそんなことをお願いするんだから……」)

日本クリスマス協会に写真部が設立

BIG&GOOD NEWS

の日に始めて自分の鼻にそのような能力があることに気が付いたようでもあります。何か不自然ではあります。私は大胆にも次のように考えます。これは史上初の器官改造実験だったのです。ルドルフの鼻に何を仕込んだかは定かではありませんが(おそらく、ホタルイカのホモジネート抽出濃縮液か、ちょうどアンコウの組織か何かか)と思いますが、これは間違いなく鼻組織の改造が行われたものと考えられます。サンタは目頃から先天的赤鼻症のルドルフに目を付けており、機を狙っていました。そしてとうとうクリスマスの前の晩、ルドルフが眠っている隙にこの実験を行にうつしたものと思われます。

しかし、これは最初の器官改造ですからいろいろな不具合も生じ、かなりの痛みも伴つていてことでもあります。でもサンタは知っていたのです。心の傷が癒えてハイになっている状態では、多量の脳内モノヒネが分泌されて身体の痛みなど感じないことを。まさに、サンタのクロースが、夜道を明るくするための目的になぜトナカイの鼻に執着したかということを考えると、謎はますます深まるばかりであります。

日本クリスマス協会の写真部長に任命されました。自然とキャンプが大好き(おまけに動物とも話せる)、坏さんは、たくさんのすばらしい秘蔵趣味写真を持っていますが、「ちゃんと写真のよさを理解して使ってくれるところじゃないと貸さないもんね」という職人気質のカメラマンさん。さつく今年から、仕事の合間に縫つて、坏さんの目が感じたクリスマスを撮つてくれるそろです。というわけで、来年の『月刊クリスマス』では、坏さんの力作が紹介できる予定です。楽しみですね。(と、前の会社の先輩に言つたら、「フジワラちゃん、また平気でプロにそんなことをお願いするんだから……」)

今年はこんな仕事をしました

のびのぶ編集長編
フリーライターになつたことでのことですか? と聞かれます。いや、どんなことでもするんです。アスクリームとケーキと好奇心でできているのびのぶ編集長ですか? 今、今年も亨テコな仕事をたくさんしました。その亨テコさが、ちょっと自慢なんですが、「やっぱり、人生一度はOLさん」という夢はまだ捨てきません。

(1) 美しいシングルママを探しています

来年初めの合併号から扶桑社の週刊『SPA!』で「TOKYOコブつき美人を探せ!」という大久保支局長が担当するコーナーを書くことになりました。さまざまに理支局長が担当するコーナーを書くことになります。さまざまな理合間を縫つて、坏さんの目が感じたクリスマスを撮つてくれるそろです。というわけで、来年の『月刊クリスマス』では、坏さんの力作が紹介できる予定です。楽しみですね。(と、前の会社の先輩に言つたら、「フジワラちゃん、また平気でプロにそんなことをお願いするんだから……」)

「(2) がんばっている調剤薬局を探しています」
薬剤師さん向けの隔月誌で頑張つてまいりました。まつたく知らぬ薬局という分野のことなので、ちょっとドキドキですが、なかなか面白いです。お近くに、いろんながんばりをしている調剤薬局があつたら教えてください。

(3) 伊勢丹で緊張しました

「(3) 伊勢丹で緊張しました」
「フリーライターになつて食べていけるの? 暫な時はうちに来なさい」と、デパートの伊勢丹のなかにあります。伊勢丹健康管理センターの野田さんが電話をくれました。お言葉に甘えて週に1回通い、パンフレットなどを作りながら、企業の健康管理の現場を見せていただきます。ユニークかつダイナミックな社員の健康管理を行つていてのびのぶ編集長はその厳しい規律にびっくり。ここにありました。さまざまな理強になりましたが、出版社で勝手にアリマゼン」と電話を勝手に切りました。ようがなく大使館まで押しがれると、これまた日本語も英語もわからないロシア人の女性が来て、つまみだされてしまいました。一体、この大使館は何のためにあるのでしょうか。国際交流はまずは電話交換話しても日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。何度も日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。何度も日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。

「(5) ロシア大使館は先輩なのですが、中村屋の女主人の伝記『新宿中村屋・相馬黒光』という単行本を出すと、ロシア大使館に電話しました。明治時代のロシアのテノール歌手の写真を探さなくてはならず、ロシア大使館に電話しました。何度も日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。

「(6) 今年もお世話になりました」

今年のナイスなお仕事(クリスマス編)は、自動シャボン玉作りサンタをみつけたコト



今年のクリスマスブックコレクション。でも日本の素敵なかなりの本はありません。

礼が出るそうです)。
(2) がんばっている調剤薬局を探しています
薬剤師さん向けの隔月誌で頑張つてまいりました。まつたく知らぬ薬局といふ分野のことなので、ちょっとドキドキですが、なかなか面白いです。お近くに、いろんながんばりをしている調剤薬局があつたら教えてください。

(3) 伊勢丹で緊張しました

「(3) 伊勢丹で緊張しました」
「フリーライターになつて食べていけるの? 暫な時はうちに来なさい」と、デパートの伊勢丹のなかにあります。伊勢丹健康管理センターの野田さんが電話をくれました。お言葉に甘えて週に1回通い、パンフレットなどを作りながら、企業の健康管理の現場を見せていただきます。ユニークかつダイナミックな社員の健康管理を行つていてのびのぶ編集長はその厳しい規律にびっくり。ここにありました。さまざまな理強になりましたが、出版社で勝手にアリマゼン」と電話を勝手に切りました。ようがなく大使館まで押しがれると、これまた日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。何度も日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。何度も日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。

「(5) ロシア大使館は先輩なのですが、中村屋の女主人の伝記『新宿中村屋・相馬黒光』という単行本を出すと、ロシア大使館に電話しました。明治時代のロシアのテノール歌手の写真を探さなくてはならず、ロシア大使館に電話しました。

「(6) 今年もお世話になりました」

今年のナイスなお仕事(クリスマス編)は、自動シャボン玉作りサンタをみつけたコト

礼が出るそうです)。
(2) がんばっている調剤薬局を探しています
薬剤師さん向けの隔月誌で頑張つてまいりました。まつたく知らぬ薬局といふ分野のことなので、ちょっとドキドキですが、なかなか面白いです。お近くに、いろんながんばりをしている調剤薬局があつたら教えてください。

(3) 伊勢丹で緊張しました

「(3) 伊勢丹で緊張しました」
「フリーライターになつて食べていけるの? 暫な時はうちに来なさい」と、デパートの伊勢丹のなかにあります。伊勢丹健康管理センターの野田さんが電話をくれました。お言葉に甘えて週に1回通い、パンフレットなどを作りながら、企業の健康管理の現場を見せていただきます。ユニークかつダイナミックな社員の健康管理を行つていてのびのぶ編集長はその厳しい規律にびっくり。ここにありました。さまざまな理強になりましたが、出版社で勝手にアリマゼン」と電話を勝手に切りました。ようがなく大使館まで押しがれると、これまた日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。何度も日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。何度も日本語も英語も分からず、ロシア大使館に電話しました。

「(5) ロシア大使館は先輩なのですが、中村屋の女主人の伝記『新宿中村屋・相馬黒光』という単行本を出すと、ロシア大使館に電話しました。明治時代のロシアのテノール歌手の写真を探さなくてはならず、ロシア大使館に電話しました。

「(6) 今年もお世話になりました」

今年のナイスなお仕事(クリスマス編)は、自動シャボン玉作りサンタをみつけたコト